

産地事情 ケニア・タンザニア

C.Dorman 社の販売担当、Kennedy Keya Adenya さんと、本日お話をさせていただく機会がございましたことから、ケニア・タンザニアの事情を簡単にまとめてみました。

ケニア

3月現在ナイロビのオークションで取引されている 2010/2011 メイン・クロップ、もともと生産量が少なかったことに加え、NYC高騰にも煽られ、タガが外れたような価格で取引されている。4月には取引が終了すると考えられている。

次の 2011/2012 フライ (Early) クロップ、開花期・成長期ともに適度な降雨に恵まれ、CBD の被害も少なかったことから、質・量ともに大きな期待が寄せられている。収穫は 2011 年 05 月～06 月の予定。

ケニア中部は全体の 6 割を生産するが、ナイロビに近い KIAMBU / RUIRU / THIKA ではコーヒー畑が潰され宅地造成が進んでいる。他方、ケニア西部では新植が進んでいる。十数年後にはケニアコーヒーの主産地は中部から西部に変わっているかもしれない。

タンザニア (水洗アラビカに限定したお話です)

2010/2011 クロップ

生産量 (= 輸出量) は、 453.000 袋 (27.200 トン) が見込まれる。

オークション経由 370.000 袋 (22.200 トン)。

ダイレクト・エクスポート 83.000 袋 (5.000 トン)。

仕向地は、日本が 3 割超でトップ。次いで米国、ドイツの順だが、コロンビアの代替としてタンザニアを買っているのは明らかであり、安定したお客さんとは考えられていない。豊作にもかかわらず早々に販売終了となることについて、高値で取引が続くケニアへの密輸出が囁かれているとのこと。運搬コストは usc 5/lb 程度。

2011/2012 クロップ

生産量の 7 割を占める南部がオフ・サイクルに入るため、生産量は 40 万袋を割り込む (23.000-24.000 トン) とのこと。北部産は、開花・成長ともに良く、質・量ともに期待されている。

Dar Es Salaam 港のトラブル、タンザニアの経済発展に伴って物流が増えているにもかかわらず、港湾設備が旧態依然としていることが原因。政府は改善を約束しているものの、新しいクレーンの設置など、遅々として進んでいない。

- ・高価な鉱物資源 (タンザニア産に限らない) に空 (カラ) のコンテナが優先して割り当てられ、コーヒー豆は後回しにされ、輸出ができない。
- ・寄港する船舶スケジュールが不安定で、抜港も常態化している。
- ・コンテナ船の沖待ちは 2 週間にもなっており、中には途中で諦めて荷を乗せずに出港する船舶も。

以上です。